春 岡 村 の 伝 説

春岡村の12月

カビタリモチ　ミケエ　タッペ　ミソカッパライ！？

１日　**カビタリモチ**（川浸り餅）

１日には、かびたりもちを搗き、朝は汁粉を食べ一日中休みました。
かつてひと月遅れで正月行事を行っていたころ、旧暦の１２月１日（新暦の１月１日頃）にカビタリモチを搗いて、暮れにまた餅を搗いたので、正月を二度やるような気分だったということです。正月が新暦の１月に行われるようになってから、この行事はやらなくなりました。

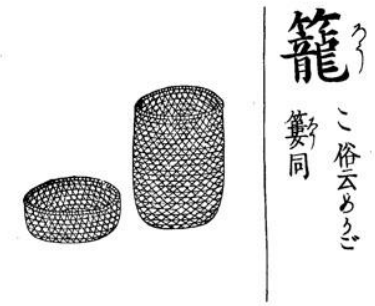
河童百圖を描いた芋銭は茨城県牛久沼のほとりに住んでいました。その芋銭の句

「川びたりの餅にも飽けよ痩河童」

…たんと餅を飽きるほど食べて、もういたずらはしないでね、痩せカッパさん
牛久沼の辺りでは、かびたり餅を川や沼、溝に投げ込んで、河童を供養したそうです。

８日　メカゴ節供（八日節供）

師走の８日と２月28日の夜は、一つ目の鬼が来るので、目の数の多い**ミケエ**（メカゴ・目籠）にヒイラギを刺し、長い竿の先にかぶせて軒にたてかけます。
この籠の中へは金銭が一杯振り込むので、鬼に取られないようにヒイラギの葉を刺すのだと言います。



１０日　大宮の氷川神社の大湯祭（十日市）

ろくろ首の見世物小屋や小屋掛けのサーカスも来て、村の老若男女は朝早くからでかけ、村はからっぽになりました。学校も半ドンで、お小遣いをもらって友達とワクワクしながら出かけたそうです。

たっぺ（この辺の方言で霜柱のこと）

たっぺが立って庭が凍て上がらないよう、庭一面に敷き藁をします。庭が座敷になったようです。見沼代用水のところの綾瀬川断層を境に坂の上は関東ローム層で霜柱が立ちます。農家の庭は作業場でもあるので敷き藁をして泥だらけにならないようにしました。丸ヶ崎新田の方は綾瀬川の沖積層なので、たっぺが立たないそうです。

３１日　**ミソカッパライ**

入浴後、お札と一緒に頂いて来た小さな大麻（大幣・おおぬさ）で家族全員が自分の身体を祓い、自分の頭越しに後ろに投げるという行事です。投げられた大麻は家族全部が終わると家の近所の道の角などに立てられます。

東三番街　平山由喜